

統一地方選挙報告会・国政フォーラム

2019年統一地方選挙では、地域から政治を変えるため、多くの仲間が参加型選挙に取組み、活動を進めてきました。そこで、2019年統一地方選挙の報告集会を開催します。

併せて新藤宗幸さんの基調講演・国政フォーラムを開催します。

日時:4月26日(金)15:00~18:15

場所:横浜都市創造センター(YCC)

◇統一地方選挙報告会

◇基調講演

講演:「市民が政治に参加する意味」

講師:新藤宗幸さん(千葉大学名誉教授)

◇国政フォーラム

「ローカルからナショナルにつなぐ」

パネラー:大河原まさこさん(立憲民主党 衆議院議員)

若林ともこさん(前神奈川ネット県議会議員 /

立憲民主党参議院比例第18 総支部長)

藤田ほのみさん(生活クラブ神奈川 理事長)

コーディネーター:加藤よう子(神奈川ネット 座間市議)

【問合せ】神奈川ネット Tel.045-651-2011



青葉地域のうごき

市民の活動と政治をつなぐ架け橋に

青木マキ(ネット青葉/横浜市議)

3/14



▲くらしでらすにてくらしと政治ワークショップ開催

くらしでらすにて、「ほつこりおしゃべりくらしと政治ワークショップ」が開催されました。くらしと政治。遠いようで、つながっていることを改めて実感できる時間でした。

ワークショップは、「食」「環境」「福祉・教育」「働く」とテーマごとにグループを分けて、普段から気になっっていることをおしゃべり。私は、「福祉・教育」に参加。一人の市民としていろいろ

必要なことが見えてきました。ケイスタデイでは市民の提案で「つくり変えた!」横浜の一時保育NPO法人ピピ・親子サポートネット理事長長友澤ゆみ子さんの話。「再生可能な自然エネルギーとGM条例」制定運動を若林ともこさんから伺いました。

神奈川ネットが、市民の活動と政治をつなぐ架け橋となり、こうした運動を共に作り、形となる。その軌跡を改めて聞き、やっぱり、市民の声を受けて政治へとつなぐ役割の重要性を感じました。私の一歩はまだまだ未熟ですが、みんなで踏み出す一歩は大きい。

3/9 市民政策提案フォーラム2019

現場から制度を変えよう



藤田ほのみさん
生活クラブ神奈川理事長



半澤彰浩さん
生活クラブ神奈川専務理事



3月9日、ワークピア横浜において「生活クラブ生協神奈川市民政策提案フォーラム2019」が開催され、県下の各地域で神奈川ネットも共に取り組んできた政策提案の発表が行われました。

日頃の生活から課題を抽出し、フィールドワークを重ね、多くの議論を経て政策提案までつなげていった経過が報告されました。その過程に多くの市民が関わり共有してきたことは、



▲横浜エリア連携協議会の報告
横浜北生活クラブ理事長の三浦紀子さん(左)
ネット青葉の平田いくよ(中央) 青木マキ(右)

市民社会を強くするために大切なこととす。

横浜では、ヘルパーの資格取得への支援や中学校の昼食時間の延長が提案によって実現しました。OCRアンケートの実施など新しい手法を使っている取組みは、これからの調査活動へのヒントとなります。

そして後半は、前半の発表を踏まえて、神奈川ネットがこれまで進めてきた活動から「香害」「石けん」「種子法」「議会での女性議員の必要性」などについて報告しました。



坪郷賢さん
早稲田大学名誉教授

最後に坪郷賢さんから、「この活動は魅力があり面白い提案であ

る。それは様々なメンバーがいて、自治体議員が関わっている連携の結果である。それぞれが現場に密着した調査で内容が深まっている。このような自治体への提案は、いずれは全国的な制度へとつながっていく。政策提案は継続が大切で、続ける中で「手応えを生み出し大きくしていく」とのコ멘トをいただきました。

また、現在議会における女性の占める割合は国では13・7%、神奈川県議会では13・1%、市議会でも20・3%、町村議会では21・2%で、決して多くはありません。議会に3割の女性議員がいると政策的に変化していく、と元神奈川ネットの活動に自信を持ち参加を広げていきます。

県立高校の入試に配慮を

県議会だより

佐々木ゆみこ (ネット宮前/県議)



県立高校の入学選抜試験に配慮が必要な生徒について、文教常任委員会で質問をしました。現在では、拡大文字にする、受験時間を伸ばすなどの配慮を行っています。それだけでは足りません。最近では、パソコンやタブレットを使い、コミュニケーションを取っている生徒もいます。更に、読み上げ機能を使っているなど様々な工夫で授業を受けています。一般受験している生徒との公平を保てるように、すべての配慮を実施しているわけではないことですが、「配慮」は多様でありその環境を整えていくことの必要を指摘しました。

また、配慮については中学校長からの申請のみとなっています。しかし中学校

に通えていないケースも考えられます。東京都教育委員会では中学校に通えていない生徒に対し、相談窓口を設置しホームページで公開しています。神奈川県も同様の取組をしていくべきと要望しました。

和歌山県立高校から全盲の女子生徒が東京大学に推薦入学をしました。多くの配慮が学校生活においてもあったことは想像できます。一人ひとりが持つ才能は無限に広がっています。才能を十二分に発揮し社会に参加していくために、入り口としての高校入試には、これまで以上の工夫を神奈川県も早急に検討していくよう、これからも働きかけていきます。

編集後記

2019統一地方選前半戦、41道府県議選と17政令市議選が終わった。道府県議選は総定数2277に対して3062人が立候補。全41道府県で計612人が無投票当選だった。無投票率は26・9%。岐阜47・8%、愛知40・2%で過去最高。自民が圧倒的に強い定数1の選挙区や、自民と非自民が議席を分け合う定数2の選挙区では、現職が有利で新人は立候補しにくく、無投票が目立つ。神奈川でも県議選48選挙区のうち13区で無投票当選となり、無投票率は19%。これでは有権者には選択肢がなく、政治離れを一層加速させることになる。政令市選出の県議の定数の見直し、選挙権の意義等、低投票率問題と併せ、抜本的対策が必要だ。

(C・M)

神奈川ネットは、地域政党です。生活の課題は政治に直結しています。国の政党が、地方の政治までコントロールするのではなく多様な地域政党が政策を競い住みやすいまちをつくる社会をめざします。



今月の神奈川ネット

- 第3回運営委員会: 4/23(火)
- 統一地方選挙報告集会・国政フォーラム: 4/26(金)
- 市民の生活・活動法律相談: 5/15(水)